

# 世界旅打ち気分

●第40回・アデレードと近郊の競馬場

## 須田鷹雄

写真のカラー版は  
<https://www.instagram.com/sudatakaashoten/>  
の#グリーンファーム会報#2021年12月号  
でご覧いただけます



特徴的な競馬場ロゴがゴール板にも  
なっているモフェットビル



馬券売り場は短パン率も高く  
カジュアルな雰囲気



競馬そっちのけでビールやワインを  
楽しむゴラーのファンたち

<https://www.instagram.com/sudatakaashoten/>

この連載も丸4年となって、さすがにネタが枯渇しつつある。既にアジアはほぼ使い尽くし、ヨーロッパもめぼしいところは出してしまったので、連載もあと1年というところになりそうだ。その間、アメリカとオーストラリアがどうしても多くなると思うがご容赦いただきたい。

今回はそのオーストラリアから。南オーストラリア州のアデレード近郊の競馬場をご紹介しよう。

アデレードはF1の開催地として有名だが、日本人観光客が行くことはあまりない土地かもしれない。ただ、居心地はなかなかよい。市街地がコンパクトにまとまっているうえ、トラムが走っているのが車がなくともあまり困らない。他の都市と同様、TAB(場外馬券売り場、同州でのブランドはUBE)もたくさんあるし、TABの機械を置いているバーも多い。

トラムだが、アデレード市内中心部から南西方向に走る路線がある。その終点がグレネグという土地なのだがここが海沿いで、しかも海の水がものすごく綺麗なのでおすすめだ。中心部からトラムで20〜30分、しかもアデレード空

短パンで立ち寄り、馬を見て馬券を買って……とカジュアルに楽しみたい競馬場だ。大レースの日はずがに着飾った客も多いものと思われるが、筆者はそういっただけで済ませない。

今回もうひとつ紹介する競馬場がゴラー競馬場。こちらはアデレードではなくその近郊ということになる。

このゴラー、競馬場そのものはメトロ場ではないのだが、たまに「メトロ開催」を担当することもあるという。その競馬場である。にも関わらず、英語版のウィキペディアにも項目として無かった……仕方ないので他の英語サイトを調べたところ、現在地と同じかどうか分からないが、19世紀には競馬が始まっていたようである。ゴラーカップ(オーストラリアの競馬場には年一の大レースとしてそれぞれカップ競走がある)は1874年に始まっている。

ゴラーはアデレードの北40キロほどのところにあり、アデレードからは列車が走っている。競馬開催日にのみ列車が止まる臨時駅もある。競馬場のウィキペディアはないのに「ゴラー競馬場前駅」の

港の滑走路から南に数キロというところで海がそこまで綺麗なのには本当に驚く。東京で言えば台場の水が澄んでいるようなものだ。しかも砂浜であり、海水浴も楽しめる。

なぜこのビーチを紹介したかというと、そこ向かうトラムの路線上にモフェットビル競馬場があるのだ。当然ながら競馬場の前にも駅があり、競馬場の行き来も交通至便である。午前中ビーチへ行き、競馬の時間になったらトラムで競馬場へ……ということもできる。

このモフェットビルは1876年創設で歴史が古く、南オーストラリア州で一番というか、確固たるメトロ場(主要開催を行う競馬場)である。もともとアデレードにはビクトリアパーク競馬場およびチェルトナムパーク競馬場という競馬場もあったのだが2000年代に廃止になってしまい、中心的な開催はすべてモフェットビルに集約されることとなった。そのため2009年に芝コースをもう一本(内回りコース)作り、芝が耐えられるようにしている。

現在は年間に17の重賞レースが実施されており、うち4つがG1。

項はあり、それによると駅の開設は1913年。ということは遅くともその時期には現在地に競馬場があったということになる。

この列車がなかなかくせもので、競馬開催日かつゴラー線を走っている列車でも競馬場前駅に止まらないことがある。アデレード中央駅では列車ごとに停車駅がすべて表示されているので、その中に「競馬場前」があるかどうかをチェックする必要がある。これを怠ると「船橋競馬場で降りたかったのに、一気に京成津田沼まで行ってしまった」的なことになりかねない。

駅は板張りのなにもない駅で、屋根すらない。夏場は灼熱の太陽に焦がされるので、帰りは列車の時間に合わせてホームに向かわない(しかもスタンドから微妙に遠い)、熱中症になってしまう。ほとんどの客は車で来ているので利用者は「開催日だと1列車あたり数人程度だ」。

競馬場のスタンドは、メトロ開催もやるというわりには小さい。そもそも平屋である。この競馬場はわりと最近に改装されたそう(アデレードが競馬再編された時期ではないかと思われる)、現在の入場者数

南オーストラリア州のダービーとオークスがそこに含まれる。ちなみにオークスの正式名称はオーストラレシアンオークスなのだが、2006年以降は飲料のシウウェップスがスポンサーとなり、レース名も「シウウェップスオークス」となっている。オーストラリアはこの「レース名を根こそぎ売ってしまう」ケースがけっこうある。シウウェップスオークスは変わっていないからまだいいのだが、スポンサーが変わると見た目全然違うレースになってしまうこともあって厄介である(公式記録ではもともとの正式名称が温存されている)。シウウェップス杯・オーストラレシアンオークスでいいと思うのだが、向こうの常識ではそれではあかんらしい。

場内の雰囲気は至ってカジュアルで、一般客として行く場合には日本の競馬場に遊びに行くのと全く変わらない。むしろ気候のせいもあって入場者に占める短パンの割合はけっこう高い。ヒラ開催のときは入場料だけで立ち入れるスペースの比率が高いし、オーストラリアらしく装鞍所における客と馬の距離も近い。

先述したようにビーチの帰りに

に見合ったサイズにしたのだろう。現在の馬券購入者はほとんどが場外馬券売り場かネットであり、ヒラ開催は客より出走馬関係者のほうが多そうなくらいだ。

ただ良い面もあり、「やっぱり現場で馬を見なきゃ」という客だけが来るわけなので雰囲気はなかなか良い。馬券はA/Bの窓口がもちろんあるのに加え、ブックメーカーが2〜3台出ている。オーストラリアの競馬場に絶対必要なバーはしっかりとあるのがスタンドの中と外に1つずつある。ごく少ない入場者に対してバーが2つというのはさすがオーストラリアだ。外のバーでは現地では珍しくワインを飲む客もいた(ビール派が圧倒的に多い)。

食べ物販売は正直弱い。馬主用の予約メニューはあるようだが、一般入場者向けのものがほとんどない。やっと見つけたのが、70歳くらいの男性が売っているステーキサンド。オーストラリアらしい赤身ソニーの肉とソーテッドした玉ねぎを、純然たる食パンで挟んだシンプルなもの。正直旨くはないのだが、頑張って肉を焼いているお父さんの心意気に応えられたという満足感があった。